



大山崎の野鳥 (ウソ)

第141号

発行日 平成29年3月10日  
 発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)  
 発行責任者 蜷木 茂徳  
 連絡先 大山崎町歴史資料館内  
 TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289  
 URL <http://www.kyoto-ofg.org/>

\*\*\*\*\*  
**20周年記念誌発行の想い** **ガイドの手引書を改訂**  
 \*\*\*\*\*

20周年記念事業実行委員会委員長 **木村 嘉男**

ガイド力向上実行委員会委員長 **永田 正明**



昨年1月にOFGは設立20周年を迎えました。この20年間いろいろなことがありました。これを振り返ってきちんと記録し、そして将来に向けての足掛かりとするべく、20周年記念誌を発行することになり、このたびようやく皆様にお届けすることができました。

まず一番には、やってきた足跡をきちんと記録すること。そして読んで楽しいものにすること。このため出来るだけ写真(カラー)を多く入れること、これからの10年をどう取り組むか、などなどでした。しかし予算の関係もあり、ページ数を抑える必要もあり、さらには、カラー化するためには、紙質も考えねばならず、多くの皆さんの原稿を頂きたかったのですが、これも抑えざるを得ませんでした。そういう制約のなかでできる限りの努力はしたつもりですが、皆さんにはきっといろいろご不満があるとは思いますがご了承願いたいと思います。編集作業は過去の書類集め、解析、編集など毎月数回の編集会議を行いました。費用の関係で印刷データもすべて実行委員で作りました。委員の皆さんにあらためて感謝の意を表する次第です。



大山崎に来ていただいたお客さまにいかにお楽しみいただき、よりよい思いを持って帰っていただくかを進めるために、会員皆が自信を持ってガイドするには

1、言葉遣い、服装、動作を含め「おもてなし」の気持ちをしっかり持ち、安心感、やすらぎの心地のもとに周遊していただけるガイドを。

2、ガイドの実施に当たり聞く人(お客様)を引き付けるはハキハキした(ダラダラしない)話し方、表現力を身につける。

3、ガイドの内容をより充実したものにしてガイドを受けた人に感銘・満足感を得ていただく解説が出来るように「ガイドの手引」を整備活用する。

以上のように意見が出ましたが、3のガイドの内容をしっかりと整えた「ガイドの手引書」を再編集、後々までも使えるように見直し改訂作業に取り組むことにしました。

見直し作業は2人組で項目を受け持ち、修正、加筆の要否が項目により大幅に異なり担当者に負担の軽重もありましたが、大切に扱っていただき現場で成果を発揮して頂けることを期待します。

**1月12日～3月9日までの活動実績**

1. 主なガイド
- ・2月1日(水) 大和郡山観光ボランティアガイド 25名
  - ・2月7日(火) 第二大山崎小学校・3年生 40名
  - ・2月14日(火) 立命館小学校・6年生 122名
  - ・2月18日(土) 「写経と散策」(OFG主催) 47名
  - ・2月21日(火) 大山崎小学校・3年生 103名
2. 会の行事など
- ・1月18日(水) OFG新春のつどい (57名)
  - ・2月5日(日) 第一回 歴史講演会 (79名)
  - ・2月26日(日) 第二回 歴史講演会 (81名)
  - ・「OFGあちこち学習山歩」
    - 1月23日(月) 島本町の天然記念物を見る (12名)
    - 2月27日(月) 生駒山 (8名)

**活動予定**

- 主なガイド、行事予定
- ・3月19日(日) トラベル日本・大阪支店 3班
  - ・3月22日(水) いきいきウォーキング 4班
  - ・3月25日(土) 「水辺の散策」(OFG主催) 全班
  - ・4月2日(日) 京都樹木会 1班
  - ・4月15日(土) 日本セカンドライフ協会 3班
  - ・5月20日(土) 「春の天王山ウォーキング」(OFG主催) 全班
  - ☆ 4月12日(水) 平成29年度OFG定期総会
  - ☆ 「OFGあちこち学習山歩」
    - 3月30日(木) 京都新聞社見学と御所でお花見
    - 4月24日(月) 鷲峰山・山岳信仰の霊場 ★★
  - ☆ 洛中ウォーキング 2017春
    - 3月27日(月) 瀬田・石山方面
  - ☆ 大山崎町歴史資料館・小企画展
    - 3月7日～3月20日 「東黒門の歴史」

**1～2月ガイド実績**

	一般ガイド		歴史資料館		宝積寺・定点		合計	
1～2月	11件	392人	135件	370人	0件	0人	146件	762人
平成28年度累計	87件	2,729人	935件	2,066人	307件	813人	1,327件	5,617人

歴史講演会 (第1回) 2/5

鉄砲からハイテク



なんでも鑑定団で有名な澤田平先生をお迎えして、生きた歴史の勉強会が始まりました。先生は、実際に高山右近(キリシタン大名)に扮装しての講演です。

我々ガイドの会のメンバーも丈夫な鎧をつけた武将、長い弓を持つ武将、本物の槍、銃身の長い鉄砲を持っている武将に扮装、実演しました。

鉄砲とは、日本において初めは火縄銃をさす言葉として使われ、後に小銃から大砲まで火器全般を意味する名称となりました。

1575年織田信長が長篠の戦いで3000丁の鉄砲で戦いに臨み、三段肘法で勝利したことは有名です。先生は、三段肘法を実際に体験され、可能だと言われました。

貴重なお宝を身近で感じる、ユニークな講演会でした。(3班 澤田 裕子 記)

(第2回) 2/26

秀吉築造の大坂城を探る



大阪城天守閣元館長、中村博司氏の講演会を開催。大坂城の地は、もとは石山本願寺があった場所で、本願寺が信長と11年にわたって戦った城(寺)があった。

柴田勝家との戦いを制した秀吉は直ちにこの跡に新しい城を築造する。天正11年9月には工事が始まっているのが、11月にはもう天守閣ができています。おそらく本願寺の遺構を利用したものと考えられている。その後二の丸部分は天正14年から普請が始まっていて、16年には完成した。またこの時期は聚楽第も同時並行して作っていた。6年後の文禄3年「惣構堀」の工事を始め周囲2和四方の巨大な大坂城が完成した。

豊臣が滅び、破却されたあとに徳川が新しく城を築くのだが、堀の深さや幅、天守の位置などは殆ど変わっておらず、ぜひ堀を含めたスケールの大きさを実感してほしい。(4班 木村 嘉男 記)

地域学習支援

2/14 立命館小学校 6年生



阪急大山崎駅に集合、離宮八幡宮と資料館コースのガイドです。離宮八幡宮の傍示石の読みや意味等6年生にもなると歴史への興味がわいてきて、こちらの説明を理解してもらえ案内しやすかったです。

昔も今も大山崎のこの小さな川の向こうは大阪府ということと、JRのホームの府境の標識には小学生らしい喜びを現してくれました。

京都、滋賀、大阪等からの児童で大山崎は初めてで、宝積寺の本堂・閻魔堂には重要文化財がたくさんあるから、ぜひ見に来て欲しいとお願いしました。

学校から配布されたワークシートを覗くと「五感を使って、歴史ある大山崎をたっぷり体感しましょう」と書いてありました。児童達のシートに詳細な絵や文章がたっぷりと書かれていて感動しました。

古代・中世・近世・近現代と大山崎は随所で重要な位置を占めます。歴史を詳しく学ぶようになった時、そういえば小学6年の時、大山崎に見学に行ったなあと思い出してもらえると嬉しいなと思った次第です。(1班 生嶋 省子 記)

2/21 大山崎小学校 3年生



小雪のちらつく寒い日。大山崎小学校3年生、103人をガイド13人で案内しました。

全体をA班、B班に分け、離宮八幡宮、資料館、閻魔堂、観音寺など約3時間では忙しいコースでしたが、子供達も先生との約束を守り熱心に聞きメモをとっていました。しかし、どこまで理解できたのか、理解できる説明ができたのか疑問です。

私が受け持った9人は、天王山は知っていましたが、登ったことのない子がほとんどで残念でした。仁王門の前で「ここが宝寺？」と目を輝かせている子がいました。「ここ校歌に出てくるよ」と校歌を全員で歌ってくれました。現地学習が直に感じられガイドしてうれしい瞬間でした。(2班 村田 君代 記)

写経と散策

2/18 心を込めて写経



第11回目の写経と散策を行いました。当日は春一番が吹いた後、穏やかな日差しに恵まれ、絶好の日和でした。

参加者は会員を含め47名、寺石ご住職様の、「一字一字に心を込めて、写経に向かえば、自ずと今の心が映し出される」大切な法話を頂きました。その中に小学校2年生の男子生徒さんが、お母さんと並んで静かに法話を聞いている姿が、印象的でした。書き終えた参加者から順にご住職に見ていただき講評を頂きました。心配そうに聞き入る人、うなずく人、笑顔の人達等で長い列がお昼過ぎまでつづきました。その後、別室で甘酒とお茶の接待を受け、男子生徒さんもほっと一息ついた表情で、お弁当を食べていました。昼食後、午後は境内の閻魔堂、本堂、小槌の宮を拝観。その後、天王山・山麓コースに分かれ宝積寺をあとにしました。(3班 中村 栄子 記)

トピックス

石倉神社が建替えられました



円明寺の里、左へ行くと小倉神社、右へ行くと金ヶ原、柳谷観音へ通じる一角に、小さな社があった。今、宅地開発の関係で、この社はきれいに建て替えられた。石倉神社は、小倉神社の末社で、小倉神社にお参りする前にお祓いと禊を授ける社で、投石信仰があった。

石倉神社の小さな社に、小石を投げてから小倉神社にお参りするという風習は明治の中頃まで続いていた。かつて、石には神さまのほか、人の魂もやどるとされていた。石は“おはらい”と“みそぎ”を受ける“人の身がわり”だったのだ。

石倉神社は、いつも寝ている寝坊な神様が祀られているそう。だから社に石を投げて、神様を起こさないと願い事が聞いてもらえないとの伝承もある。

傍らに、ふるさとガイドの会の説明板が立っている

(2班 石橋 克己 記)

編集後記 1年間のご愛読に感謝します

平成28年度の最終号を発行します。本年度も合計6回を予定通り発行できました。貴重な情報を寄稿頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。(平成28年度 広報委員一同)

OFGだより次号は平成29年5月10日に発行します。